

第22回バケツ稲づくりコンテスト
文部科学大臣賞

千寿桜堤中学校1年 久保 拓舞さん



稲を囲んで家族の会話が増えた

7ヶ月間。バケツ稲づくりに久保さんが携わった期間の家族の協力は大きい。土と一緒に買いに行ってくれたお父さん、研究材料として世界の米料理を作ってくれたお母さん。九州にいるおじちゃんとおばあちゃんは米農家。普段はあまり話さないが、米作りのプロに電話でアドバイスをもらうこともあった。

一番大変だったのは、毎日の水やり。去年はとても暑かったこともあり、夏場は1日に2・3回は必要だった。水やりを忘れないために思いついたのが、稲のバケツでメダカを飼うこと。「忘れてたら、メダカが干からびちゃう」これは久保さんのアイデアだ。お母さんも水やりが気になり、水が少ないと声をかけたくなるがそこは我慢。「自分でやらせなきゃ」と見守った。

この7ヶ月間が、「文部科学大臣賞」という素晴らしい結果につながった。それ以上に、家族の絆が深まっていることは言うまでもない。

vol.3

すごいね足立の子どもたち

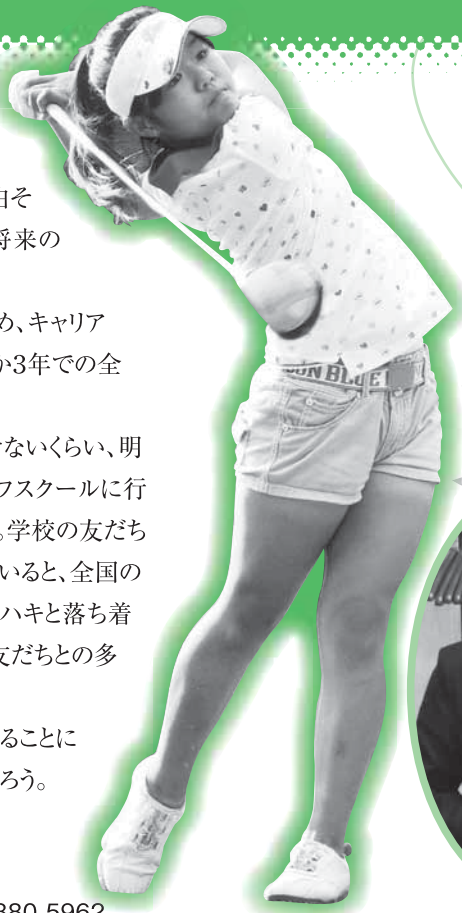
「足立」から「世界」へ

お父さんとお母さんがやっているのを見て、面白そうと思ったのがゴルフを始めたキッカケ。今では将来の夢になっている。

小学2年生の終わり頃からゴルフを始めたため、キャリアはまだ短い。都大会での優勝はあるものの、わずか3年での全国大会優勝は快挙だ。

普段の廣田さんは日本一の小学生を感じさせないくらい、明るく元気な女の子。しかし、学校が終わるとゴルフスクールに行き、休日はコースに出るといったゴルフ漬けの毎日。学校の友だちとは遊ぶ時間がほとんどないが、「ゴルフをやっていると、全国のいろんな所の友だちができて嬉しい」と笑う。ハキハキと落ちていて話すことができるのも、ゴルフを通じてできた友だちとの多くの出会いがあるからなのだろう。

この大会の中学生の優勝者は、世界大会に出ることになる。廣田さんが、世界へ飛び出す日も遠くないだろう。



2011ロレックスジュニアゴルフ
チャンピオンシップ決勝大会

11歳以下女子の部 優勝

足立入谷小学校6年 廣田 真優さん



問合せ先 ➡ 教育政策課 教育政策担当 ☎3880-5962

本紙は区のホームページにも掲載しています。
区のホームページhttp://www.city.adachi.tokyo.jp/からアクセスして
くらしのガイド「学ぶ」→「教育だより」をご覧ください。

「あだち教育だより」にご意見・ご感想をお寄せください
足立区教育委員会事務局 教育政策課
☎3880-5962 e-mail:k-seisaku@city.adachi.tokyo.jp

印刷番号23-313
再生紙を使用しています